

[001]社会教育研究紀要表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1854046>

出版情報：社会教育研究紀要. 1, 2015-09-30. Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

発刊にあたって

岡 幸 江

前任の南里・松田両教授が本学を去られ、1年余の空白期間を経て私が着任させていただき、はや丸6年がすぎた。オーバードクターの院生に支えられつつも、ほぼゼロからの研究室づくりは今なお道半ば、社会情勢の影響もあり日本人の博士課程進学希望者が全国的に減少傾向にあるなかで、安定したとはいいがたい状況にある。

九州大学の社会教育研究の系譜において、近年においては南里悦史教授のもとで『地域生涯学習研究』（1999～）、松田武雄教授のもとで『社会教育思想研究』（2001～）が刊行されてきた。研究室をひきついで私のもと、今回装いあらたに『社会教育研究紀要』として本誌を発刊するが、あえて「創刊」ということばは用いず、本学社会教育研究を導いてこられた諸先生方の歴史をひきつぎつつ、オーソドックスな名称で、第1号として刊行したい。

本号には、4本の論文および1本の研究ノートを掲載した。現役の研究室メンバーは研究ノートを執筆いただいた社会人院生のお一人のみ、あと4本の論文はなんらかのかたちで当研究室が主宰している研究の場に関与いただいた方々である。当研究室からの研究者輩出を願う身としてはまさにまだ道半ばとしかいえないが、一方で研究の輪の広がりという意味では、ありがたい布陣ともいえる。

研究の輪のひとつは、あたりまえともいえるが大学院演習である。本号は第I部に「1980年代と生活文化運動」をかかげている。ここには「1980年代」が、人々の生活変容と社会教育学研究をめぐる時代的転換点があったのではないかと、という仮説がある。大学院演習では、半期をかけてとくに「地域の時代」「文化の時代」をめぐる1980年代当時の政策関連文書を分析し、翌期に、各人が自分の研究テーマにひきつけてなんらかの生活・文化運動にかかわる対象を設定し、分析報告および集団的に検討する作業を行った。本号にはそこで検討されたなかから2本が掲載されている。

今回の紀要にかかわるもうひとつの研究の輪として、2010年に開始した「社会教育学カフェ」がある。これは大学を超えた研究議論の環境に乏しい九州という条件をのりこえる一つの試みとして、北部九州圏域における社会教育学研究者、また社会教育の議論に関心を持ってくださる他領域の方や他大学出身の研究者も交えてひらいている院生・若手研究者による研究議論の場である。「社会教育学カフェ」は書いたものを前提に報告することで、属性や立場を超えたフラットな議論の場をめざしている。今回一般投稿に応じたくださったお二人は、そのメンバーであり、御礼申し上げたい。

いま、九州ではこれにとどまらず、大学をこえた研究・教育・実践支援の輪がひろがっている。すでに次号では、筆者が科研の申請代表をつとめる九州の社会教育学研究者の共同研究の中間報告を、特集として掲載する予定となっている。冒頭で研究室づくりの今日的困難をのべたが、それは研究室をこえて研究の輪をひらいていくことへの必然的条件にすぎないのかもしれない。

読者皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。次第である。